

8. おわりに

今後に目指すべき「社会システム」をマズローの欲求の5段階説で考えると、社会との関わりを軸とする、「社会的欲求」、「承認欲求」、「自己実現欲求」を充足するモデルであり、調査結果などにも現れているように、「生涯現役社会」構築への期待と意義は大きいといえる。

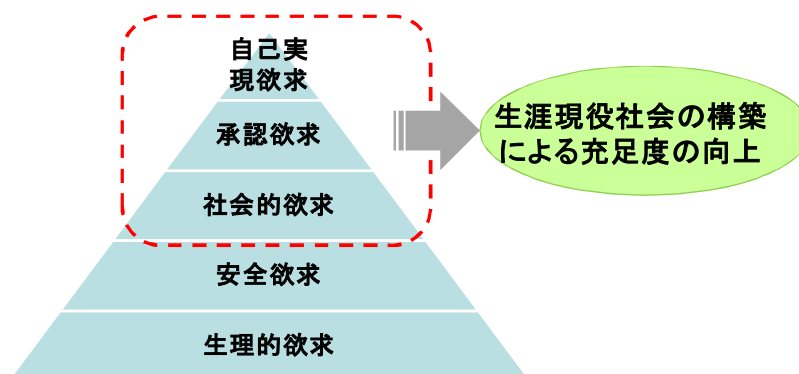


図 83 マズロー 欲求の5段階 と 生涯現役社会への期待

生涯現役社会が実現すれば、個人の「生きがい・社会参加」に資するのはもちろんのこと、就労者は自立度の低下をゆるやかにすることができ、伸び続ける医療・介護といった社会保障費の適正化にもつながることが期待できる。

構造的な人手不足や知識・技術のノウハウ問題等を抱える地域や産業にとっては、良質な人材の確保にもつながり、経済的効果も期待される。

私たちが目指す「生涯現役社会」は、これまでのように「支える側」と「支えられる側」を年齢で画一的に区分する社会ではない。個々人の多様な価値を尊重しながら、自らの意思と選択により多様な形での社会参画を促進しつつ、「支える側」を増やしていく仕組みであり、ひとりひとりが生涯にわたり社会との関係を持ち続けながら過ごしていける、「人を活かした環境づくり」の実現である。

「生涯現役社会」の実現に向けて、「国・地方自治体」、「社会参画の場(企業、NPO、地域)」、「個人」が役割分担と連携を図りながら進めていく必要がある。当面は「国・地方自治体」が本事業の総括として述べた基盤となる環境整備を積極的に進めながら、「生涯現役社会」の実現に向け、新たな社会システムを構築していく必要がある。

この基盤づくりが、持続可能な「好循環型福祉社会システム」の創出につながることを期待したい。

以上